

## 第5回 世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会 当日の進行及び議事要旨

### ◇開 会

#### ◇会長あいさつ

- ・今回で5回目の協議会となった。
- ・条例等難しい案件もあるが、8月20日から協定を締結していただいた事業者には、レジ袋を有料化していただいている。いい意味でも、悪い意味でも、実際にやってみて、問題点、あるいは利点もはつきり具体的に見えてくる段階に来たところであると思う。
- ・消費者・市民の理解を得ることによって、事業者も進める方向がわかりやすくなると思うので、実際に動いてみての意見を出していただき、それによって今後の方向性を見定めながら、環境先進都市に向かって進めていけるように英知を集めたい。

#### 《協議・報告事項》

##### (1)レジ袋の削減に向けた取組みについて

##### ア レジ袋有料化の実施状況について

##### (株式会社マツモト説明)

- ・有料化を始めた8月20日の様子は、亀岡市の周知徹底ができていたようで、特に大きな混乱はなかった。
- ・当日はエコバスケットの特売を行い、非常に大きな反響があった。市内6店舗で、普段の3~4倍の売上となった。最初に用意していた分で足りず、倉庫に走る事となった。特売後も販売をしているが、通常は1か月40~50個の売上が、21~28日で220個以上の販売となった。市民の皆様もエコに関心を示されているのではないかと。
- ・レジ袋の数量は、有料化前と同量を各店舗1週間分発注したが、1週間後は次の発注は全く上がってこない。レジ袋を使わず、エコバッグやエコバスケッドを利用されている方が多いのではないかと。
- ・弁当袋はいいよ、という話だったが、弁当袋をどこまで使うのか、という声が現場からあった。京都市内ではすでにレジ袋を有料化しているが、今回亀岡市でも、京都市内に準じる形で行っている。中には、お客様が弁当袋に入れてくれをいう方も全くないとは言えないが、ごくごく少数だった。
- ・今後に関して、来年度禁止になった際には、現実的には紙袋を用意しなければならないか、と考えているのが現状だ。

##### (協同組合亀岡ショッピングセンター説明)

- ・8月20日よりレジ袋を有料化し、それほど大きな混乱はなかった。レジ袋辞退率は以前より20~30%アップした。エコバスケッドを販売し、かなり好評で、今、追加で発注している。

- ・弁当の持ち帰りで客に不便をかけていると思われる。遠方からの客については、レジ袋有料化を知らず、買われる方もいるが、抱えて持ち帰る客もいる。

(会長)

- ・エコバスケットは、やはり効果が大きいのか。

(株式会社マツモト)

- ・車で来店した客は、エコバスケットなら袋詰めせず、そのまま持って帰れる利便性があるので買われる客が多いと思う。

(協同組合亀岡ショッピングセンター)

- ・エコバスケットを初めて販売し、利用者は3円引きとしており、それも大きく影響していると思う。

(会長)

- ・実際に使用される方、市民の方に、どこまで周知できていると考えているか。

(株式会社マツモト)

- ・市民には、有料化については伝わっていると思う。

(亀岡市)

- ・何で有料化するんだ、とか、弁当袋に全部入れてくれ、など、レジのパートの方に文句を言うのは、イメージでは男性で60歳以上の方、という感じだが、どうか。現場の声としてお聞きしたい。

(株式会社マツモト)

- ・性別年齢はあまり関係なく、男女問わず、意見をいう方は言う。

(協同組合亀岡ショッピングセンター)

- ・年齢問わず、言われる方は言われる。言われる人はかなり厳しく、なぜレジ袋にお金を払わなければならないのか、と言われる。クレームがあっても、有料化で通している。他の客もいるので。どうしても、一部に理解を示されない方からのクレームはある。

(亀岡市)

- ・アミティさんは、「遠方から来ているという方」は、どのようにして把握しているのか御教示いただきたい。

(協同組合亀岡ショッピングセンター)

- ・カード制度をやっており、レジでカードを通すと、住んでいる地域が登録してあるので分かる。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・禁止と有料化は全然内容が違うので、どこまで参考になるかわからないが、スーパーで買う商品によって袋が欲しいというものがあると思うが、マイバスケットを使わずに、袋が欲しいと言われる客は、どういう商品を買った客が多いのか。米、弁当と冷凍食品、それ以外に袋を渡しているケースはあるか。

(株式会社マツモト)

- ・米、弁当は袋を渡している。冷凍食品はビニール袋に入れてバッグやバスケットに入れ

る。寿司や刺身もビニール袋に入れる。大きなものはバッグに入らないので包んでお渡しをすることになる。

(会長)

- ・有料化されたことによって、こういう問題が見えてくる。これも重要な課題なので、なかなか避けて通れない問題だと思う。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・何度も言うが、有料化自体に反対しているわけではない。しつこいようだが、亀岡以外から来る客も多いし、海外からの客も多い。我々が全国チェーンでやっているのは、看板を見ただけで品揃えやサービスが分かる。それが看板の効果で、同じ看板でもこの店はこうでこの店はこうで、となるのが一番困る。そういう意味で全国一律で有料化、このタイミングで合わせてほしいというのが最初からずっとお願いしていること。
- ・弁当、寿司、冷凍食品、米については、コンビニの主力中の主力商品。有料化ならまだしも、禁止になるとそもそも商売として成り立たない。そこに対する有効策が明確にあれば反対はしない。
- ・ほかほか弁当とか、本当にどうするのか、思う。

(会長)

- ・なかなか有料化は難しいということか。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・経産省がレジ袋有料化に関する会議を始めて、来週2回目の会議がある。フランチャイズチェーン協会、スーパーマーケット業界など、小売の十数団体が参加している。国としては来年4月1日から有料化したいとそれに向けて動いているが、我々も法律で決めれば仕方ないので協力するが、4月1日スタートはさすがに準備が間に合わないので勘弁してくださいというのが小売全体の意見。
- ・地方や自治体によってレジ袋の定義を考えたとき、国が定義を決めたときに定義がバラバラになる可能性があるので、国としてマネジメントしていただけないか、とお願いした。国としては地方行政に口出しはできないという位置づけで難しい所があるが、できることがあれば言ってくださいと経産省から言われている。
- ・そういう状況なので、国の流れに合わせていただけないか、ということ。

(事務局)

- ・定義の問題などは課題になると考えます。国の動向を注視しながら、市の独自性や考え方を整理したうえで、進めていきたいと考えています。
- ・さきほどお話に出た、米、弁当、寿司などの袋の形など、どういうものを要望されるのか、という消費者意識にアプローチしながら考えていきたいと思えます。

## イ レジ袋等の大幅削減の取組みに関する協定について

(京都信用金庫説明)

- ・この協議会に参加したのは、京都信用金庫として同時期にSDGs宣言を行い、その趣旨に

賛同して亀岡市と7月29日に協定を締結した。それに伴い、8月8日から市内の店舗で粗品を渡す時のビニール製の袋を市販の紙袋に、なぜ変えるのかを説明した上で渡している。

- ・京都信用金庫オリジナルの紙袋を今年10月に向け作成中で、全店でビニール袋を回収して、紙袋に変える。同時に、エコバッグを当金庫オリジナルのものとして作成中で、粗品として配布する予定である。

#### (亀岡商業協同組合説明)

- ・組合では、14、5年前からエコポイント制度を始めており、1ポイントをつけていたが、8月1日から3倍ポイントを行っている。前年対比で、客の数は8月25日時点では691件で前年対比で277%、ポイント発行店舗は43店舗で252%の2,082P。チラシ配布は1回で、徐々に数字は上がっている。1か月に1回、月単位で数値を出して見ていきたい。
- ・利用する客は60歳以上が多いので、エコバッグ、というより「買い物袋」という形で3倍ポイントを進めていきたい。やることによって効果が数字に出ているので、効果は実感している。

#### (会長)

- ・レジ袋削減に関して、お客から、何か意見はあるか。

#### (亀岡商業協同組合)

- ・ポイントをつけることが特典なので、買い物袋を持ってきて買物をする、という流れになるのでは。
- ・いろんな業種があり、もともと袋を使わない店もある。西友のテナントでは、肉屋、魚屋もマイバッグにしてもらって、有料化してもらっている。
- ・さほど大きな問題はないときいているが、魚屋さんから喋る時間が長く、10~20分話す客もいると聞いている。これは年齢的なものと思うが。

#### (事務局説明)

- ・京都タクシー・新京都タクシー様は、1,000個のエコバックを作成いただき、10月1日から、タクシー利用者がスーパー等へ買い物に行かれる際、エコバックを持っているか尋ね、持っていないという利用者に配布するという取組みを始められます。
- ・また、タクシーの全車両の後ろの窓に、リアステッカーを貼り、亀岡市の環境への取組みをPRとして貼らせていただくこととなっています。

#### (亀岡市)

- ・取引関係だったり、付き合いのある方に対し、理解するインターフェイスとして、市が広く浅く薄く広報するだけでなく、取引関係だったり、付き合いのある方に対し世間話になっても広報していただけるのは有難いし、市があまり依存してもいけないが、協定を結んだ広報効果があったのではないかと感じた。

## ウ エコバッグシェアの取組みについて

### (公益財団法人亀岡市環境事業公社説明)

- ・ 公社は市の委託を受け、市内のごみ、し尿の収集運搬、各種啓発を行っている。
- ・ ゼロエミッション計画、プラスチックごみゼロ宣言を踏まえ、今まで取り組んできたごみ減量活動の一環としてエコバッグシェアを行っている。
- ・ 内容としては、家庭、事業所、企業、団体等に眠っているエコバッグを地域資源ととらえ、有効活動を図るもので、提供されたエコバッグを必要とされる方に使っていただくもので、資源を地域循環させるものと考えている。
- ・ 個人にお配りする場合と、個人商店に一定枚数を渡す場合と 2 通りあり、各お店でシェアしてもらいやり方で実施し、レジ袋問題が進展する中で、代用品に苦慮されている個人商店に対し、支援の一助として実施し、連携しながら社会実験として行っている。
- ・ 今まで提供いただいたのは 200 枚。個人で取りに来られたのは 10 人、個人商店で 5 店舗実施していただき、6 店舗目の交渉を進めている。
- ・ また、環境問題は多岐にわたり、啓発ステッカーを 3,800 枚ステッカー作成してごみの分別、適正廃棄を呼びかけている。生活の場である亀岡市において、ごみの減量化を目指して、取組みを進めていく。

### (亀岡市)

- ・ 大手飲料メーカーが傘を無料で貸す取組みをしているが、シェアリングには成功と失敗の要因がある。失敗の定義は返却されないということだが、置く場所、エリアで違いが出る。たとえば繁華街は失敗する。人がいっぱい来て二度と来ない。オフィス街は毎日同じ顔ぶれが利用するので成功の確率が高い。こういったシェアリングの取組みが亀岡で広がればいい。失敗の可能性も含んでいるが、市も一緒に成功できるように考えてやっていきたい。

### (会長)

- ・ どういったところでエコバックシェアをしているのか。

### (公益財団法人亀岡市環境事業公社)

- ・ 魚屋、果物屋、豆腐屋などで行っている。

### (亀岡商業協同組合)

- ・ 商店街単位で置くなど、そういうルール作りができれば、浸透するのではないかと。

### (事務局)

- ・ 情報提供としまして、エコバッグシェアについては、朝市などの直売所でも検討しているところがあると聞いております。商店街はリピーターの獲得にもつながると思います。商店街単位で実施するのもいいかな、という意見もありました。
- ・ その他の動きとしまして、商店街連盟様は、協定に対する賛同店舗は 47 店舗との報告がありました。

- ・レジ袋の有料化については、小売店舗等から協力できないかとの問い合わせもあり、直売所等でもプラスチックを削減する、商品価値を上げるという意味でもエコバッグを活用したいとの声もあります。少しずつですが、賛同店舗の増加や、取組みへのご連絡が市にも寄せられています。

(亀岡地区東部自治会、川と海つながり共創プロジェクト)

- ・事業者がご苦勞をされているのが分かるが、市として有料化を8月20日から実施したが、現場に出て現実に見ているのか。
- ・エコバッグシェアは、食品と食品以外のものとの分けるといいのでは。どのように循環させるのか。衛生管理の面で、気配りも必要ではないか。
- ・シェアリングステーションを何らかの表示をして設け、同じ店でなくても同じグループのところに返して、また使ってもらうことも可能ではないか。そうすれば、商店街の中でもつながりが強くなるのではないか。

(事務局)

- ・市としましては、8月20日は職員が分かれて店舗へ行き、啓発を合わせた現場対応をさせていただきました。スーパー様へサイン掲示物の配布など現場を回り、意見をお伺いしながら対応させていただきました。今後、市域全体に意識を広げていきたいと考えている中で、できるだけ、対話を大事にしながら進めていきたいと考えています。
- ・エコバッグシェアリングの衛生面の管理は、市がどこまでできるか、ということはありませんが、ある程度事業者の皆様と協力・連携する中で調整していきたいと考えています。衛生面の管理は必要と認識はしています。

## (2)市民(消費者)理解の促進について

### ア 市民説明会の実施について

(事務局説明)

- ・消費者の理解の促進ということで、今後、市民理解の面で説明責任を果たすため、市内の各地で日程、場所を調整したうえで、市民説明会を実施したいと思えます。プラスチックごみゼロ宣言の趣旨、目指すもの、レジ袋禁止の条例制定も含めて説明をさせていただきたいと思っています。特に、禁止となった場合、いろんな疑問や不安もあると思いますので、直接ご説明できるような場にしたいと思えます。

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

- ・プラスチックごみ削減の取組みということをお聞かせいただいた。エコバッグやエコバスケット、の話があったが、温泉はほぼ100%が観光客。そういった方々に市の取組みを説明するような、館内に掲示するものを考えてほしい。
- ・何事も上流から下流というものがある。バーベキューのごみをそのままにして帰るといふ話もあるが、ごみ箱の設置も見直すべきではないか。町中のごみ箱が無くなり、各店舗にごみ箱を設置すると、そこにごみがあふれる。分別して捨てるノウハウを亀岡が持

っている、とか、プラスチックごみについては、中国がダメ、マレーシアもダメになるなどの話があるが、市としてペットボトルの回収や、プラスチックバッグをどうやって集めるか、などを考えるのも一つではないか。

- ・日本国内からも、外国からの客にもわかりやすい掲出するものがあればありがたい。

(事務局)

- ・説明のプリントについては、前向きに検討していきます。ごみ箱の設置につきましては、まさに課題だと認識しています。そこにつながるかは未知数ですが、市職員でクリーンエコ通勤の取組みを進めています。それを市民の皆様の美化活動につなげ、拠点にごみ箱を設置しそれを回収する、ということなども検討しています。

(会長)

- ・市としてごみ箱を増やすのか。

(事務局)

- ・現在は、必要最小限の設置はしています。市として増やすような施策はしていません。

(湯の花温泉観光旅館協同組合)

- ・JRの駅でもごみ箱が減った。ごみ箱を減らして実際ごみは減っているのか。ごみ箱の設置は要望としてお願いしておきたい。

(亀岡地区東部自治会、川と海つながり共創プロジェクト)

- ・レジ袋について、市として条例を制定し法的整備を行うが、亀岡市には環境美化条例がある。この中では、観光客も含めて市民等と定義し、自分が出したゴミは持ち帰ることを市民等の責務としている。観光客には実際には無理だと思うが、ごみを出す以前の段階でそれぞれが亀岡市として目指していくことをPRする必要がある。利用される方々にごみを出さない、最小限のところで集約させるということをやっているといけなのではないか。ごみ箱を設置することは環境美化条例の点で言えば、反しているとは思ふ。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・ごみ箱の問題ということで、やっとな本質に入ってきたなと思うが、街中にゴミ箱がない。だから、水路とか田んぼなどにプラスチックごみが一杯落ちている。ただ、ごみ箱があれば必ず捨てる。それがなくなることがポイ捨てに繋がっている。上流で止めないと、ごみの問題は絶対に解決しない。上流でどうやって止めるのかと言っても、市内にごみ箱がないというのが現実。
- ・今どこにごみ箱があるかという、コンビニ、ファーストフードの店頭。そこに全てのごみが集まっている。レジ袋禁止というのであれば、販売者はそれなりの責務を負わなきゃいけないが、消費者もポイ捨てをしないということが絶対責務として必要だと思うので、そこに対する罰則規定をしっかりと明確にして、行政はいつでも捨ててもいいようにごみ箱を設置してほしい。
- ・今、世の中から公園やら何からゴミ箱がどんどんなくなっている。結果的に、コンビニは過去20年間でごみがどれだけ増えたか数字も出せる。それは皆さんびっくりすると思

う。そのほとんどが家庭のごみ。有料化になって市のごみ袋は高いお金がかかるので、まして生活困窮の方はごみ袋を買えないのでコンビニのレジ袋でコンビニに持ってきて捨てる。もしくはその辺の川に捨てる。そのあたりを市としてケアするような施策ができてきているのか、ということ。

- コンビニは販売者責任としてごみ箱を設置しているが、オーナーが自分たちの経費で処理費用を負担している。禁止条例をするのであれば、全ての小売店に対して条例の中でごみ箱設置を義務付けるくらいの、両方の手段をとってもらわないと、最終的にはいつまでもコンビニとファーストフードの店頭にごみが集まる状況が避けられないのではないかと。
- 場合によっては、レジ袋禁止条例ができる前提で、ごみ箱をコンビニの店頭から撤去することも考えざるを得なくなる。それくらい加盟者の経費の負担になっているという現状は認識していただきたい。
- 先ほどバーベキューの話が出た。まさにそれがいい象徴ではないか。レジ袋禁止にする、有料化する、有料化したときにマイバックを持ってくるような人はもともとごみを捨てる人じゃない。そうでない人がごみを捨てる。そうでない人にどうアプローチをするかというのが、今後の政策の本質になっていくのではないかと。
- 先ほど事務局から消費者理解ということで、言葉は悪いが、表面的というか、きれいごとの文章が並んでいるが、具体的に何をやるかが我々には見えないので、そこを明確にしていきたい。
- 昨日、仕事でタイのバンコクに行ったが、バンコクにも川が流れている。ここのごみをどうするかということで、すごい取組みをしている。数年前に行ったときに比べ、バンコク市内はすごく綺麗。東京より綺麗じゃないかというくらい、ごみが落ちていない。何をしたのかと環境局の方に聞くと、ごみ箱を設置したと。ごみ箱を設置すると、現地の人も観光客もみんなごみ箱に入れてくれる。それを市が回収しているので経費はかかっていると思うが、交差点のありとあらゆるところ、信号ごとにごみ箱が設置されている。京都市内の観光所というところにも、全てごみ箱がある。そういう政策も合わせて考えてもらうことが、本質的なごみの削減、プラスチックごみの削減につながるのではないかと。具体的に検討いただきたい。

(亀岡市)

- 上流から下流までいたるところでアクションを起こして総量を減らして、結果的にごみにかかる費用等による経済的負担を社会全体で受け止めて、それを減らしていく、ということだと理解する。レジ袋のような、そもそもごみになるようなものは出さない。一方で、出たものは回収する。捨てた人は厳しく罰する。ごみの処理の中でしっかり分別して、かかる費用を減らして、結果的に住民の負担が減る、そういうサイクルを作ることが必要だと考えている。ごみ箱の回収については、設置しているのは行政だけでなく事業者もされていることも認識しているので、レジ袋一辺倒の表面的な施策にならないように、積極的な提案として、広報施策やごみの回収等いただいたので、私の責任で、



私が副市長として出ている以上、具体的な施策として進めていきたい。

(京都信用金庫)

- 消費者の立場から言うが、レジ袋を禁止にするのなら、代替案が必要ではないか。例えば、紙袋を用意して事業者に配布して、事業者がそれを消費者に渡すなど。禁止にするのは簡単だが、代替案やコストを議論しないとイケないのでは。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- 国の動きとしては、経産省としては、来年の4月1日から容器包装リサイクル法の中で、省令で有料化したい。4月1日から完全に有料化スタートということで目標にしているが、いろんな細部の問題がいろいろ出てきて揺れているところがある。
- その一つが、そもそも4月1日までにレジ袋の調達ができない。メーカーが当然、在庫を持っているが、有料化するにはスーパーやコンビニは4月1日までにレジにバーコードを設定したり、いろいろなことをやらなきゃいけない。バーコードがないレジ袋は4月1日からは使えなくなり、それぞれのチェーンはそれぞれ指定のレジ袋を発注しているので、その資材の調達をどうするか。
- 経産省に言っているのは、レジ袋のメーカーの話をきちんと聞いてくださいということ。日本の企業が海外に行き、海外で製造して海外から調達しているケースはいくらでもあるので、そういうところは来年の春の調達も既に終わっている。そういうこともあって、4月1日ということが経産省も少しぐらぐらしている。
- プラスチックバックを有料化にする、バイオマスはオッケ、生分解性はオッケ、紙はオッケ、という代替案があるのはある。あるが、コンビニ56,000件が一斉にバイオマスの袋に変えとなると、バイオマスの原料は海外の企業1社がほぼ独占していて、そもそも原料が調達できない。
- 紙袋は、コンビニのいくつかあるチェーンのうち1つが全部紙袋にするというだけで国内から紙袋は調達できなくなる。どこから調達するかとなると、隣の国から調達するしかない。本当に、海外の木を伐採して、紙袋のために、全部有料にして、それで本当に環境にやさしいと言えるのか。
- 生分解性は、前回も言っているとおり、そもそもない。なので、代替と言えるものが、実は1個もない。
- 温めた弁当、先ほど話に出た寿司、温めた手で持てないグラタンをどうするか、代替があれば有料化もいいが、ない以上はどうしようもない、売るな、という話ですか、ということになる。なので、経産省も歩み寄ってくれて、4月1日に法律としてはスタートするかもしれないが、施行は5月か6月でどうでしょうということまで打ち合わせをしているところである。

(岸副会長)

- 先ほど市民説明会の話があった。商工会議所も、消費者を迎える立場の事業者・商業者を対象としてレジ袋の有料化や禁止についてアンケートをしたいと考えている。結果が出ればこの協議会でも報告したい。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・こちらからお願いしたわけではないが、あるチェーンの亀岡市内の担当が従業員及びオーナーにアンケートを行った。約40名くらいのアンケートでしかないが、正直1/3くらいはいいことだからと賛成という意見があるかと思っただが、結論からすれば1人もいなかった。見たところ、誘導するような質問ではない。
- ・回答として一番困るのは、市外や海外から来た方に、必ずトラブルになるのでどう説明すればいいのか、というのが一番多かった。さきほど市民の理解、納得についてという話があった。市民説明会をしてもらうのは当然だが、それ以外の方々に対してどう説明すればいいのか、いちいち従業員が説明するのか、ということ。

(以下、◇はアンケートの記述)

- ◇9号線に大きな看板をつけてここからは有料、禁止ですよ、とするか。
- ◇嵐山、関空、京都駅にも掲示をしてほしい。
- ◇温めたものをどうするのか。
- ◇市民の方々にはある程度理解してもらえと思うが、やはり市外からの客の間とのトラブルになるのは100%分かっている。これに対して市の職員が24時間対応してくれる窓口や警察が対応してくれるような対策が必要。
- ◇国の政策と足並みを揃えて実施してほしい。全国一斉に開始するとそんなに混乱はないのではないか。
- ◇全国に先駆けて実施して、ええかつこしいのパフォーマンスにしかすぎない。
  - ・という厳しい意見もあった。
  - ・この内容はどこかのタイミングで事務局と共有したい。禁止条例に反対しているから実施したわけではなく、本音のところを聞かせてほしい、ということで実施したら、有料化はいいが、トラブルが起きるのは目に見えているので従業員が辞めたらどうするのか、という切実な内容になっている。
- ◇売り上げが下がる。
- ◇マイバックに入らないものは買わないので、客単価が下がるのでは。
  - ・現場でレジに立つパートの客とのトラブルが一番の懸念事項で、トラブルが起こることが分かっているながら、ああそうですか、条例やりましょう、というふうにはなかなか言い切れないことは、ご理解いただきたい。
  - ・現実に、パートと客のトラブルで罵られたり、暴言を吐かれて辞める人はたくさんいる。高校生の女性だったりすると、自分にも娘がいるので、これは耐えられない、看過するのは。周知しかないと思うが、そこは徹底的にお願いしたい。
  - ・条例にするなら住民投票で決めてください、という意見もあった。どちらの結果になってもいいが、そういうことによって周知されるので、そんなことも検討いただきたいという意見もあったことを付け加えておきたい。

(保津町自治会)

- ・新聞に、タイでジュゴンが死んだという報道があった。原因はビニール袋を食べてとい

うことで、そういう話題が持ち上がっている。コンビニで買い物しても、近々レジ袋がなくなると言われたことがない。なぜ今から客に声掛けをしないのか。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・ 亀岡のすべての店舗を把握しているわけではないが、東京には声掛けをしている店はいくらでもある。コンビニチェーンでいろいろ考え方があがるが、率先してレジ袋を削減している。有料化をしているところはないと思うが、レジ袋いりますか、いりませんか、と声掛けをしている店は実際たくさんある。例えば大学や事業所に入っているコンビニではレジ袋を配っていない。

(保津町自治会)

- ・ いりますか、いりませんか、ではなく、もうすぐレジ袋がなくなります、となぜ言わないのか。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・ 禁止はまだ決まっていないので。市が、市内のコンビニにこういうことを考えているのでお声掛けしてください、と言えればいいのでは。
- ・ そういう声掛けをするのは、なくなることが決まったらやる。禁止条例とコンビニがやっていることは違うと思うので一緒にしないで頂きたい。

(亀岡商業協同組合)

- ・ 決まっていないことは言えない。代替案としての袋の斡旋や、ゴミ箱の設置は意見としては出ている。決まっていないことを聞かれても、言っていないのか。

(会長)

- ・ 禁止になる可能性がある、くらいは、禁止を目指しているので言えるのでは。

(亀岡商業協同組合)

- ・ 解決策がない中で、代替がないので、不安をあおるだけになる。答えとして言えないのは非常に辛いところだ。

(会長)

- ・ コンビニさんも同じ意識だと思うが難しい問題だ。海外からの方は、レジ袋を断るのではないか。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・ 実際は海外の方も、大きい袋に入れてくれ、とか2つに分けてくれ、という要求はある。国によって違う。

(保津川の世界遺産登録をめざす会)

- ・ コンビニで、ごみ箱が店外にあるのは市内では2、3店舗くらいで、他はみんな店内にある。そうすると、川や山にごみが増える。そういう点で言うと、ポイ捨て禁止条例もやらないといけない。今後、考えてほしい。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・ もともとコンビニがスタートしたときは、ごみ箱については、最初は全ての店が店外に設置していた。店内で買い物された方が車の中で食べられて捨てていかれる。いろんな

自治体のごみの分別が厳しくなり、コンビニの店頭のごみ箱に捨てるときに分別してくれない客が圧倒的に多いので、結果的に捨てやすいということもあって、コンビニの店頭にごみが集まるのが実態。ごみの収集運搬の業者で分別していないものでも持って帰ってくれるところもあるが、分別していないと持って帰らない業者も結構ある。そこで経営者が夜遅く、ごみ箱の袋を開けて分別している。そんなことを高校生のアルバイトにも手伝ってもらっているところもあるのも実態。

- たとえば、お年寄りの紙おむつや注射針など、いろいろなものが入っている。そんなことを高校生のアルバイトにやらせるわけにはいかないということで、やむを得ないということで店内に入れた。店内に入れることによって人の目線が気になるのか、割と分別してくれている。そうじゃない人があちこちに捨てているということが事実だろうから、そこをどうするのかというのが一番の課題。
- これはコンビニだけが頑張ることができるのではなく、自治体やNPO、NGOと一緒にやって清掃活動をしたりしている。それでは不十分だとは理解しているが、なかなか答えがない大きな課題があることは認識している。
- 一方で、ごみ箱があるのはコンビニだけなので、その処理料金がびっくりするくらいの金額になっているのは事実で、それは全て経営者の負担になっている側面があることは理解いただきたい。

(亀岡市)

- 事業所の方からは、レジでの文句を言うトラブルが困るという意見をすごく聞くので、広報施策の一つとして、トラブルにならないよう、市はこういうこと議論をしている、レジ袋禁止になるかもしれない、代替品は現時点ではその一つとして紙、というものを、わかりやすい1枚の紙にまとめたような広報紙を市として作成できたら、事業所で掲示していただけるか。レジ袋の条例が施行する、しない、いつからやるにかかわらず、今の時点からできる施策としてできるのではないか。それについては、協力いただけるか。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- 具体的に、いろいろな自治体とレジ袋削減協定も締結しているし、レジの画面で具体的な市の名前を入れてレジ袋削減にご協力くださいとやっている市はたくさんある。有料化、禁止ではないが、協力してくださいと。
- 全てのコンビニや外食チェーンが同じ協会の中にいるので、同じポスターを作ってもらい、もしくはレジに置くものを作ってもらい、削減に取り組んでいる自治体はたくさんある。全国の中で、数ははっきり覚えていないが、レジ袋削減協定を、それぞれのチェーンの本部がそれぞれの自治体と提携している。京都市も、京都府もやっている。

(会長)

- 市から提案されれば、コンビニは協力するのか。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- もちろん。我々は削減するのが目的で、大前提だから。例えばコンビニや外食チェーンは同一の大きな掲示物を作ってください、それを店頭ですべて貼っていく。そんなこと

は喜んでやらせてもらう。

(亀岡市)

- ・押しつけではなく、双方同意を得た形で、今の段階から浸透させていくことはすごく大事だと思うので、提案させていただきたい。会議後、また連絡させていただきたい。

(一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会)

- ・むしろ、コンビニは平均すると1日に1店舗で平日は約1,000人の客が来る。1,000人の客に一店舗あたりで何かしら告知すると、行政の広報誌などよりもインパクトがあるはず。それは我々の強みなので、そこは利用させていただきたい。もちろん内容は禁止条例ありきではないものを。

(亀岡商工会議所)

- ・ホームセンターや100円ショップ、ドラッグストアなどはどうなっているか。
- ・花火大会は来年から袋について、どのような策を考えているか。

(事務局)

- ・ホームセンターについては横並びでというお話もあり、継続しての協議、ドラッグストアは全社集まっていただき協議しましたが、中には理解いただいたところもありましたが、足並みが揃っていませんので継続して協議しています。家電ショップ、100円ショップも大きな店舗を中心に協議していますが、結論としては合意には至っていません。引き続き協議してまいります。
- ・花火大会については、一部リユース食器を利用しています。屋台のほうでは徹底できていませんが、条例の定義で事業者の対象で屋台も含めるべきという意見もあり、対象になれば、来年の花火大会でもそれは求めていく必要がありますし、使い捨てのプラスチックごみの削減についても求めていきたいと考えています。

(保津川の世界遺産登録をめざす会)

- ・今年の花火大会では、エコステーションはプロジェクト保津川が担当したが、大変だった。商工観光課が担当しているが、伝達もない、説明もない。市として、プラごみゼロ宣言をしたのに、市として一体的に、他の部署と一緒に取り組んでいるのか。行政は縦割りというが、宣言してから初めての花火大会なのに、ごみは大変多く残った。そういう意味で、もっと体制を考えてもらい、市として連携してもらいたい。

(事務局)

- ・今年の来場者は12万人で、去年は10万人でした。ごみステーションや花火大会に関しては、実行委員会が主催し、市は商工観光課が窓口となっていますが、来年以降、環境先進都市を目指して議論を進め、御意見を参考にしながら環境政策を進めていきたいと考えています。

## イ Plastics Smart かめおか 100 人会議の実施状況について

(事務局説明)

## 《その他》

◇事務局説明（第6回協議会は9月30日（月）午後3時30分からの開催とします）

### ◇岸副会長あいさつ

- ・冒頭、8月20日からレジ袋有料化が始まったということで、マツモトさんとアミティさんから実施状況について報告があったが、大きな問題もなく、辞退率もアップしたという報告があり、順調に進んでいると感じた。また、NHKや新聞も、相対的に肯定的な意見が多かった。
- ・また、京都信用金庫さんや亀岡商業協同組合さんの事例紹介もあったが、後半には、市民の理解を得ること、商業者の考え方もどうかなどを掘り下げた中で、今後まだ詰めていく必要があると考えている。
- ・来年3月の条例制定に向け、今後も議論を進めていきたいと考えており、今後も皆さんの協力をお願いしたい。

### ◇閉会